



広島大学情報メディア教育研究センター

Information Media Center, Hiroshima University

センター案内（2020年9月版）



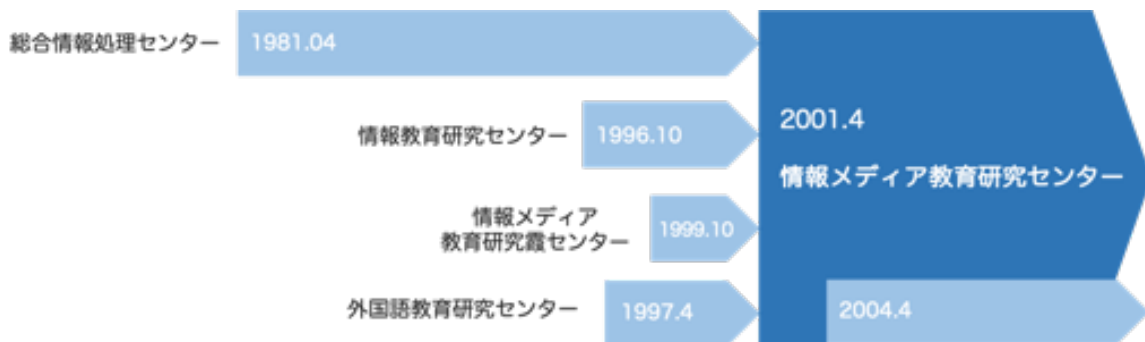
広島大学

概要

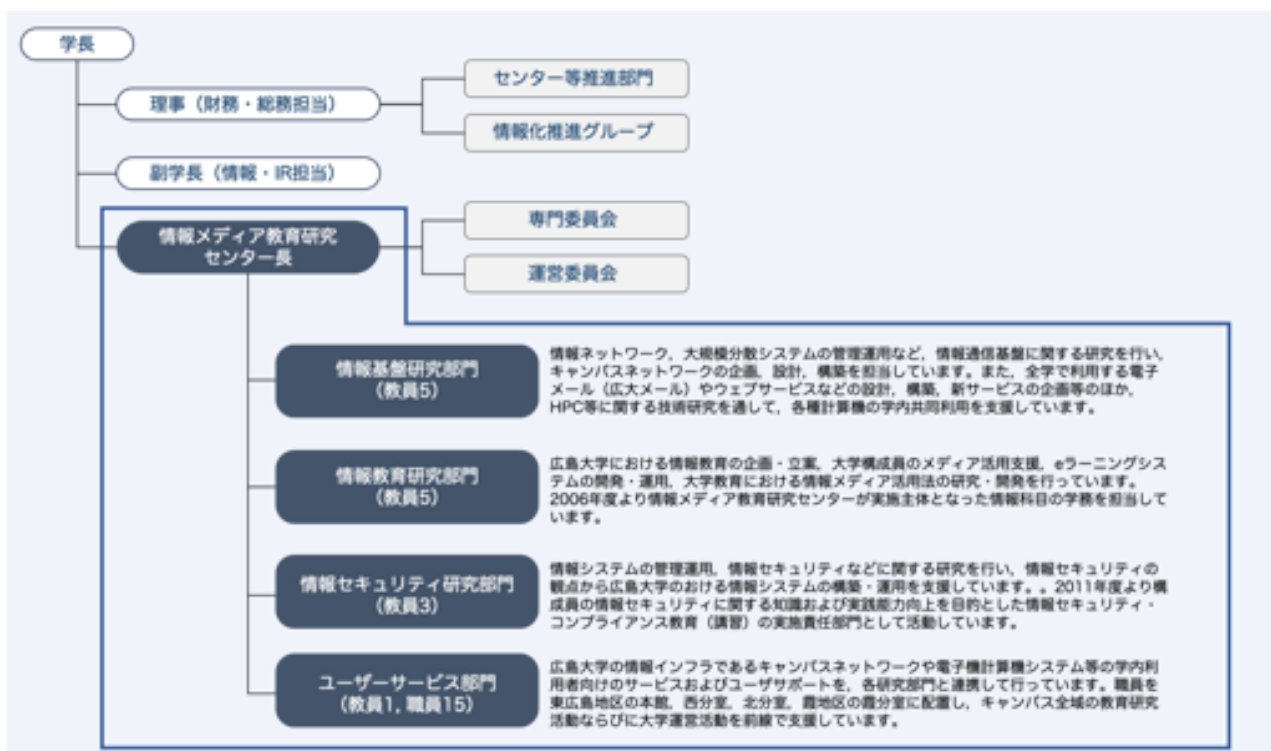
情報メディア教育研究センターは、全学の共同利用施設として本学の情報基盤を支えること、情報メディアを活用した教育の企画・立案・実施の支援や業務の支援、情報技術を安全に活用するための研究開発を推進することを目的として設置されています。具体的にはキャンパスネットワークの企画・設計・導入、本学の全構成員が使用する電子メールサーバや主要3キャンパスに設置された教育用端末などの企画・更新等を担当し、一括して管理運用を行っています。また構成員に対する情報セキュリティ教育などセキュリティの向上に繋がる活動を行なっています。さらに、情報化により急速に変化する社会に対応・貢献するため、「情報」と「メディア」の利活用に関する研究を推進して、広島大学の教育・研究環境を充実していきます。

沿革

情報メディア教育研究センターは、2001年4月に総合情報処理センター等の4センターを統合して発足しました。2004年4月に外国語教育研究センターが分離し、現在に至っています。



組織図 (2020.4.1 現在)



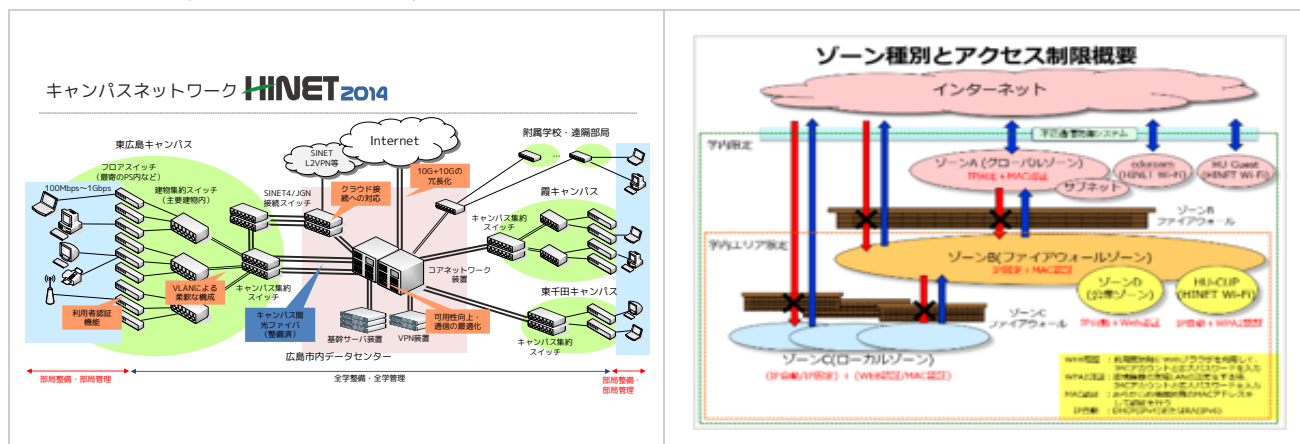
業務・サービス内容

(1) 全学共通基盤

情報メディア教育研究センターでは、広島大学の全構成員が毎日利用する全学的情報基盤を支えています。キャンパスネットワーク、HINET Wi-Fi、電子メールなどのネットワークサービス、いずれもが大学の活動に欠かすことのできないライフラインです。

① キャンパスネットワーク

キャンパス情報ネットワーク HINET は、情報メディア教育研究センターが提供する全学ネットワーク基盤です。情報メディア教育研究センターによる一元管理により、部局や研究室ごとに個別のファイアウォール機能を提供し、安全で自由度の高いネットワークを組むことができます。遠隔地にある3つのキャンパス（東広島、霞，東千田）および附属学校や東京オフィスなど広島大学のどこでも同じように利用できます。教育研究や大学運営における多様な要求に応えるために、HINET では学内外からのアクセス可否パターンおよび利用形態に応じたゾーン種別に整理したネットワーク接続を提供しています。



② HINET Wi-Fi（情報コンセント）

講義室、会議室、図書館、福祉施設など学内の共用スペースで無線 Wi-Fi サービス「HINET Wi-Fi」を利用できるように、アクセスポイントの整備運用を行っています。2017 年 4 月からは全ての講義室で利用可能になり、広島大学で進めているノートパソコン必携化のための環境が整備されました。HINET Wi-Fi は全学認証基盤と連携して広島大学全構成員の無線 LAN 利用環境を提供するほか、eduroam 対応により学外者にも Wi-Fi アクセスを提供しています。また主要キャリアによる Wi-Fi サービスの乗り入れにも対応しています。



③ 全学認証基盤と連携したネットワークサービス

マイクロソフト社のクラウドサービス Microsoft365 を広島大学の全学認証基盤と連携させることにより、広島大学の全構成員（教職員・学生など）を対象にした電子メールサービス（広大メール）や、クラウドストレージでのファイルの保管（OneDrive for Business）、メッセージングやビデオ会議（Teams）などのサービスを提供しています。

(2) 教育支援サービス

① オンライン学習

個別授業の Web ページ構築を支援するため、コース管理システムである"Blackboard Learn"を導入し、「授業支援システム Bb9」として全学にサービス提供しています。Bb9 は、資料配布やオンラインテスト、課題管理、グループ学習補助など、授業を数多くの側面から支援する機能を備えており、個別授業だけではなく各種講習会・研修会のサポートや、学内向けの e ラーニング教材の提供など、学内でさまざまに活用されています。また、教職員を対象に、教材作成を行う際に必要な著作権処理支援や動画作成支援もサービスとして提供しています。

② VOD サービス

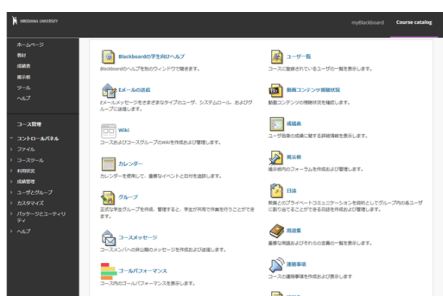
全学の知識資産として共有するため映像データを学内に開示するサービスを行っています。2002 年度からこれまでに、講義等を蓄積し配信しており、広島大学の貴重な映像資産の蓄積を進めています。また、Bb9 と連携した動画配信サービスとしても活用されています。

③ 動画コンテンツ作成支援・著作権処理支援

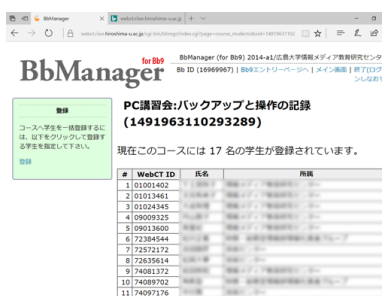
学内外に対してのオンラインでの公開を目的とした教育用ビデオコンテンツの制作をお手伝いします。利用者の要望に応じて最適なコンテンツの形式を提案し、技術センターと協力して撮影、編集、コンテンツ化までの作業を行います。また、第三者の著作物を利活用した教材などをオンラインにおく場合に必要な著作権処理をお手伝いします。

④ 出席管理システム

オンライン学習システムへの Web ログインによる出席管理のほか、学生側がネットワーク接続可能な機器を全く持たない場合に、学生証のみで出席確認をするタッチ式の出欠確認 PC も貸出しています。



様々な機能を備えた LMS を提供しています



もみじと連携した履修者登録が可能です



学生証による出欠確認もできます

(3) 学生支援サービス

情報メディア教育研究センターでは情報システムを用いた授業の実施や自学自習のため、さまざまな学生向けの支援サービスを提供しています。

① ホームページ作成

学生は大学の Web サービスを利用して自分のホームページを作成し、インターネットを通じて情報発信を行うことができます。学生は誰でもホームページを作成することができますが、ホームページを公開する場合は、「Web 公開チェック」を受ける必要があります。CGI やデータベースも利用でき、CMS（コンテンツマネジメントシステム）の導入も可能です。

② 教育用情報端末

授業や自学自習に利用できる教育用情報端末（Information system for Communication and Education, ICE 端末）をキャンパス内に 377 台設置しています（東広島 202 台、霞 140 台、東千田 35 台）。ICE 端末では起動時に、Windows（Windows 10 Education）もしくは Linux（Ubuntu 18.04 LTS）いずれかの OS を指定することができます。学生証に搭載されている IC チップを活用して、パスワードと学生証による二要素認証でログインします。オンデマンドプリントシステム（カラー、モノクロ）を導入しており、ICE 端末や持ち込みパソコンから印刷を行うと、学内各所に設置されているオンデマンドプリンタで受け取ることができます。印刷料金は、学生証に搭載されている生協電子マネー（MYple）で支払います。



端末室



オンデマンドプリンタ

② ノートパソコン必携化

広島大学では 2015 年度よりノートパソコン必携化を開始し、学生はノートパソコンを準備し、授業において教員の指示があった場合には、持参できるようにしています。HINET Wi-Fi を利用して、教室や図書館等、学内のさまざまな場所からネットワークに接続することができます。電源を備えたオープンスペース等もあり、ノートパソコンを収納し充電を行える機能を備えたロッカーを、各キャンパスに設置しています（東広島 3 か所、霞・と東千田に各 1 か所）。学生は自分のノートパソコンから Web プリントサービスによるオンデマンドプリントへの印刷ができます。



オープンスペース



充電ロッカー

③ 情報科目の学習相談

東図書館内の情報メディア教育研究センター受付に教務補佐員を配置し情報科目に関する学習支援を行っています。授業で生じた疑問や授業時には分からなかった内容について教務補佐員が共に考え、解決のお手伝いをします。

(4) 研究支援サービス

パソコンの性能が上がり高速な計算を手元で行えるようになった現在でも、大規模かつ超高速な計算リソースや使いやすいアプリケーション利用環境の提供による研究支援は情報メディア教育研究センターの重要なミッションです。

① アプリケーション・ライセンスサービス

一部のソフトウェアについて、学内の教職員が個別に購入や手元のパソコンにインストールしなくても利用できるように、アプリケーションサーバへの Web アクセスによる利用環境を提供しています。これらのソフトウェアの実行環境はアプリケーションサービス側で用意し、操作および画面表示を手元のパソコンで行います。また、一部のソフトウェアについてはキャンパスライセンスの取りまとめも行っています。

アプリケーションサービス 対象ソフトウェア (2020.9.1 現在)
Mathematica 12
SAS 9.4
GaussView 6.1.1

キャンパスライセンス 対象ソフトウェア (2020.9.1 現在)
Mathematica
Gaussian / GaussView
SAS
ArcGIS Pro

② HPC サービス

九州大学情報基盤研究開発センター「スーパーコンピュータシステム ITO」の包括契約を結び、学内構成員に対して研究教育用計算機システムを提供しています。また科学技術アプリケーションのためのパブリッククラウドサービスの利用支援や講習会等の企画も行なっています。

③ ホスティング サービス

研究室や部局など、学内の組織単位で Web サーバなどを運用するための機能を提供するサービスです。このサービスを使えば、学内組織が自前でサーバを設置することなく自分のサブドメインを持つことができます。Web サーバ、DB サーバ、DNS サーバ、SSH サーバ、メール（転送）の機能を提供しており、主に CMS（コンテンツマネジメントシステム）を用いた部局・研究室ホームページの運用などに使われています。

(5) 情報教育と情報化支援

情報メディアを活用した教育の企画・立案・実施の支援及び情報化の支援の業務を担っています。

① 情報教育

(a) 基礎情報教育

1997 年から教養教育として基礎情報教育を実施しています。学生は所属学部の一環により履修する科目を「情報活用概論」、「情報活用基礎」、「情報活用演習」の 3 つから指定されます。情報メディア教育研究センターで企画、運営している「情報活用基礎」では、e-ラーニングと協調学習による先進的教授法を導入し、また、情報学分野の参照基準に基づいた情報教育を実施しています。

(b) 情報メディア教育特定プログラム・基本情報処理特定プログラム

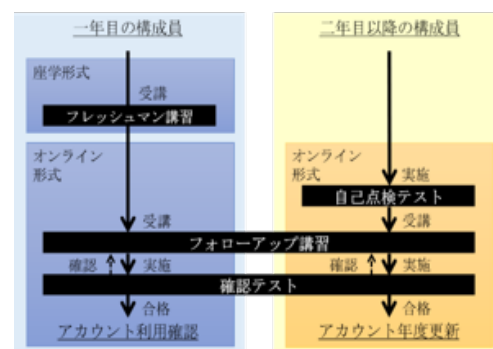
2007 年より情報メディアを専門的に取り扱う特定プログラムとして、2 つのコースからなる「情報メディア教育特定プログラム」を開設しています。「コンピュータサイエンスコース」ではコンピュータサイエンスの体系的な理解を、「情報デザインコース」では情報メディア、情報デザインの体系的な理解を目指し、理論と実践の両面から教育を実施しています。また、2020 年度より情報科学部と合同で、より高度な ICT スキルを学ぶ「基本情報処理特定プログラム」も解説しています。

(c) 情報セキュリティ・コンプライアンス教育

2011 年度より全構成員を対象に「情報セキュリティ・コンプライアンス教育」を行っています。在籍 1 年目の構成員は、座学形式の「フレッシュマン講習」により基礎知識を学んだ後、オンライン形式の「フォローアップ講習」で知識を更新し、「確認テスト」で理解度を確認します。2 年目以降の構成員は、過去 1 年の行動を振り返る「自己点検テスト」から始めます。



(a)基礎情報教育と(b)情報メディア教育特定プログラムの科目



(c)情報セキュリティ・コンプライアンス教育の流れ

② 情報化支援

(a) 脆弱性診断・パスワード診断

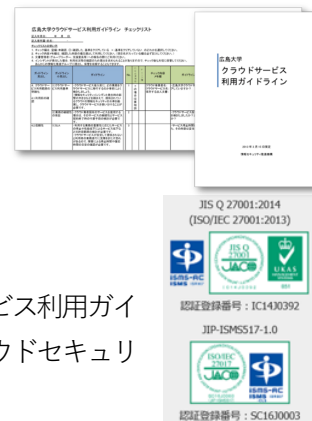
2000 年度より HINET に接続しているサーバ、CMS (コンテンツマネジメントシステム)、パスワードに対して学外および学内のネットワークから脆弱性診断を実施し、それぞれの管理者および副管理者に結果を知らせるサービスを行なっています。

(b) 広島大学クラウドサービス利用ガイドライン

2013 年 3 月に「クラウドサービス利用ガイドライン・チェックリスト」を策定しました。本学または部局等が法人文書の保存場所としてクラウドサービスを利用する際に、その重要度に基づいて本学の情報セキュリティポリシーとの整合性を確認可能な補助資料として策定されています。

(c) 情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) 認証取得

2015 年 3 月に ISMS の認証を取得しました。2017 年 3 月には、前述のクラウドサービス利用ガイドラインを活用して、ISO/IEC 27017:2015 (JIS Q 27017:2016) に基づく ISMS クラウドセキュリティ認証を国内の学術機関で初めて取得しました。



連絡先・アクセスマップ

広島大学情報メディア教育研究センター <https://www.media.hiroshima-u.ac.jp/>

本館	〒739-8411 広島県東広島市鏡山 1-4-2	TEL: 082-424-6252, FAX: 082-424-7043
東分室	〒739-8512 広島県東広島市鏡山 1-4-5 東図書館 2 階	TEL: 082-424-6325
霞分室	〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3 医学部基礎講義棟 1 階	TEL: 082-257-1580



東広島地区



霞地区

